

緊急提案

「北上市の元気な地域のかたちとは ～あじさい型集約都市～」

平成20年度国土交通省委託・新たな公によるコミュニティ創生事業 元気な地域の「かたち」創造ワークショップ成果報告

特定非営利活動法人 いわてNPO-NETサポート

〒024-0061 岩手県北上市大通り一丁目3番1号 おでんせプラザぐるーぶ3F
TEL:0197-61-5035 FAX:0197-61-5036 E-mail:npo@npo2000.net

○はじめに

平成21年2月28日に開催した元気な地域の「かたち」創造フォーラム（平成21年度国土交通省委託・新たな公によるコミュニティ創生事業）において、各地区ワークショップからの提案として「あじさい型集約都市」が政策提案されました。

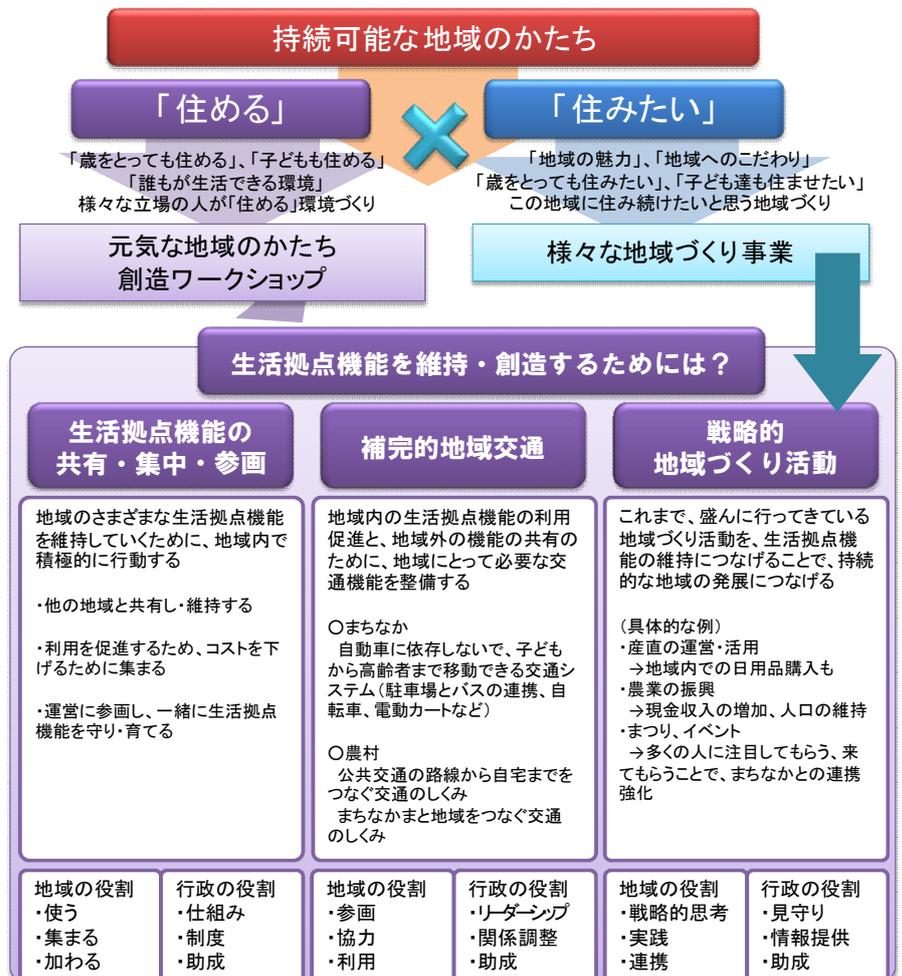
北上市が進むべき集約型都市のかたち、所謂地方都市におけるコンパクトシティのかたちを地区自治会が提案したことには大きな意義があると思います。これは地区が自ら計画を立て、地域づくりを進めてきた北上市の先駆的な取り組みの大きな成果であり、取り組んできた地区自治会のご努力に大きな敬意を表したいと思います。

（1）元気な地域のかたち創造ワークショップの成果と視点

北上市はご存じの通り、各地域では活発にまちづくり活動がなされています。今回、テーマにした「持続可能な地域のかたち」というときに、一つは今まで各地域の皆さんが活発に活動されてきた、地域の魅力、地域へのこだわり、そういったものを見つけて地域づくりをしていくそういった視点があったと思います。

もう一つは、そうはいってもこの地域好きなんだけれど、機能的に住めないということがこれから人口減少と公共交通の衰退が予想されます。そういったときに住みたいけど住めないということでは、そのときになってはもう遅いということで、あらかじめ「住みたいまち」と「住めるまち」を地域の皆さんが考えるきっかけをつくればということで開いたのがこのワークショップです。

住めるというのはどういうことかといいますと、高齢者でも子どもというように、車を持っていない人たちでもその地域で安心して暮らせるというまちをみんなで考えるというのがこのワークショップのねらいです。この2つが合わさる、そういう視点から地域計画をみんなで立てて、実行していくことによって、持続可能な地域ができるのではないかとというのが大きなねらいでありました。



(2) ワークショップの成果とは

ポイント1：生活拠点機能の維持

1つ目は、生活拠点機能の共有、集中、参画ということでもあります。ワークショップでは、それぞれ生活にどうしても必要な施設、機能を探す作業をしていただき、生活機能を維持するには集中して配置する、あるいはそこに地域の方々、車を持っていない方々が使えるように移動させてあげる、そういった動きが必要になってくることを共有させていただきました。

ポイント2：補完的地域交通

今、路線バス、コミュニティバスが走っていますが、たとえば、数時間に1本という割合でとかバス停まで行くのに自分の家から1時間も歩かなければならないといった状態が各地区に見られます。

前までは和賀地区、現在は口内地区でボランティア交通を進めておりますが、現在の公共交通を補完する取り組みが今後、各地区で予想されるということでもあります。

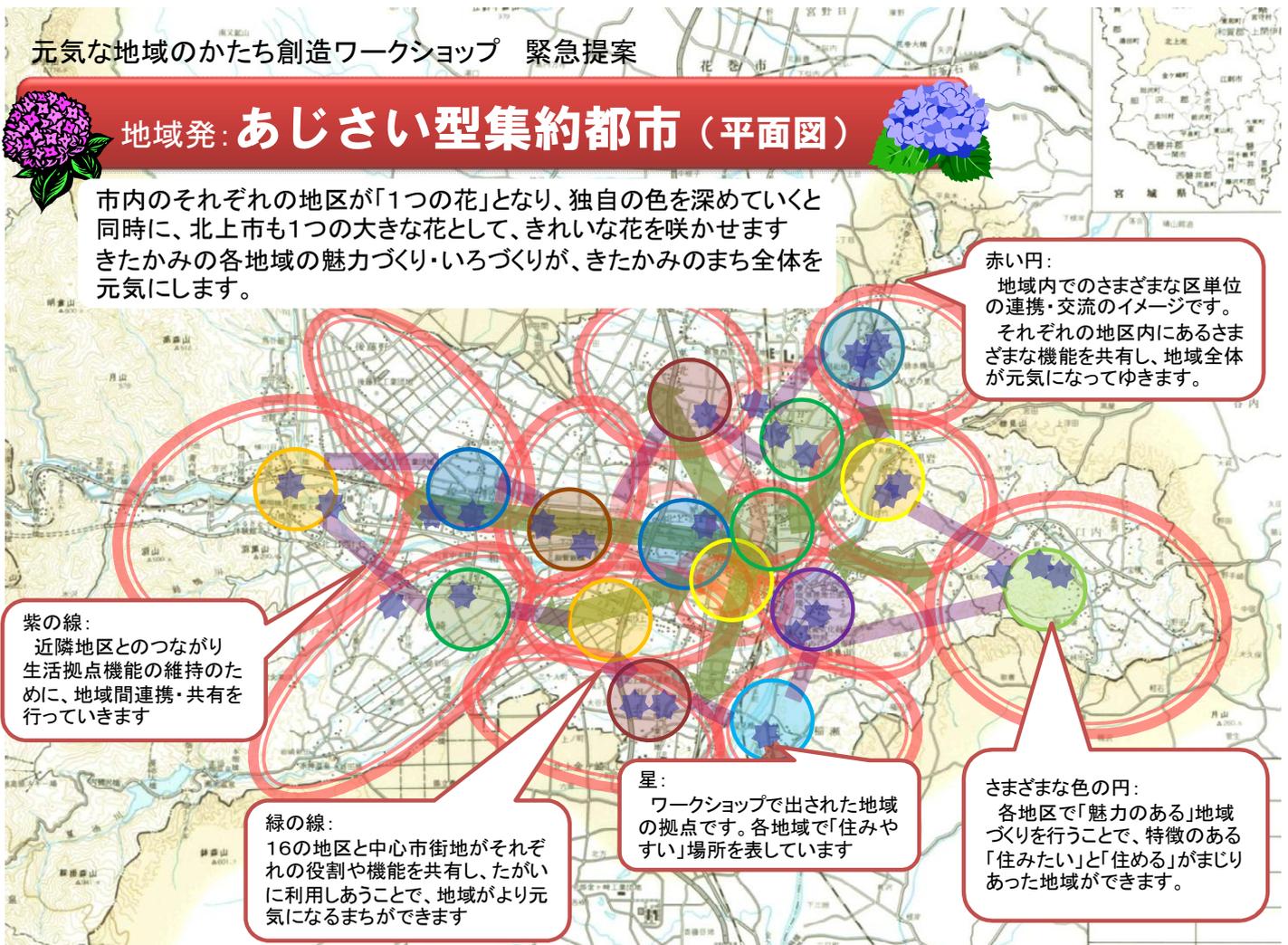
車がないと買物に行けない、診療所に行けないという状況になってきています。もちろん、車社会ですので、車をなくするという発想ではありません。車がない人でも、どのようにしたらそこに安心して暮らせるだろうというためには、補完的な地域交通を考える必要があるだろう。これが2点目です。

ポイント3：戦略的地域づくり

3点目に戦略的地域づくり活動が挙げられます。今現在、各地区では各地区のお宝を探して、それを盛り上げて地域の魅力につなげていこうという活動が行われておりますし、それが地域計画に生かされようとしています。

この取り組みを地域の生活拠点を維持したりすることも含めた地域活動が行われると、より持続可能な地域づくり活動が住民の皆さんの手で行われるのではないかという可能性を今回のワークショップでは共有しました。

(3) 「あじさい型集約都市」の提案



○あじさい型都市のイメージ

都市部と農村部がそれぞれの役割を担い、共生します。地域それぞれも花（各区）の集合体であり、そして北上市としては、大きな一つの花としてみることもできます。

地域それぞれで美しい花をさかせ、それが市全体でも美しい花になる。それぞれの地域がより輝くための地域づくりが北上市の特徴です。

○地域間の連携

花は、ミツバチのような虫がいることにより、様々な種が生まれ、より美しい花となります。

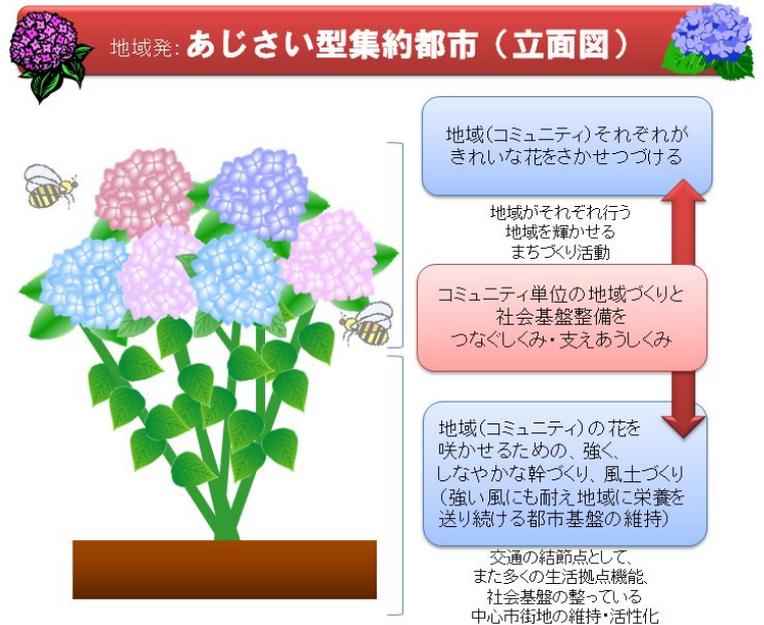
北上市においても、地域づくりを地域間の連携や、さまざまな資源を共有、そして資源や情報をつなぐことで、より美しい花が咲くことができます。花同志をつなげることもとても大切な地域づくりです。

○支える幹と根の必要性

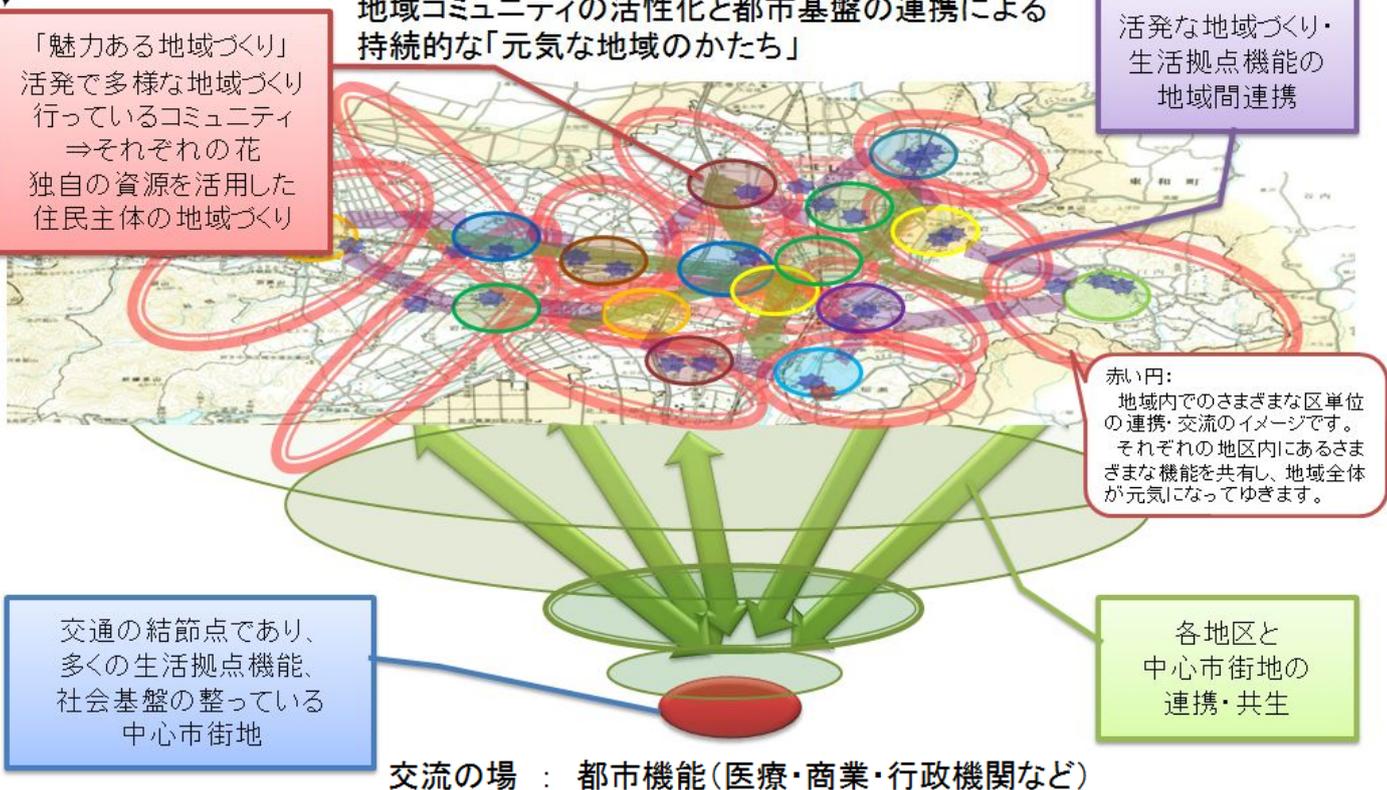
花を咲かせるためには、幹がしっかりしていなければなりません。

都市の場合でも、都市基盤がしっかりとしており、様々な生活機能が都市に備わっていないと、それぞれの地区の「花」を咲かせることはできません。現在の都市基盤は、そのほとんどが中心市街地にあり、また公共交通も中心部に集まってきます。中心市街地を支え、都市基盤を維持、確保することも、16の花を咲かせ続けるためには、とても必要なことなのです。

周辺部対中心部という考え方ではなく、周辺部と中心市街地がそれぞれの役割を担いながら、ともに支えあう構造を作りたいというのが「あじさい型集約都市」のねらいです。



地域発: あじさい型集約都市 (北上イメージ)



(4) 提案のまとめ

○何故あじさい型か

集約型都市（コンパクトシティ）というと中心市街地だけに焦点が当てられ、周辺部が忘れられるといったイメージがどうしてもぬぐい去れません。目指すべき都市像として共有されにくいのもそのためだったと思われます。

今回各地区で開催したワークショップにおいて、参加した地区住民の皆様の、地域を何とか良くしようという強い思いを感じ、いつしかそれぞれに咲く小さな花を、一つ一つの地区（コミュニティ）に見立て、それぞれの花が美しく咲いて一つの花になるあじさいを理想都市のイメージとするようになっていました。そしてこの「あじさい型集約都市」が地方都市の目指すべきコンパクトシティの姿であれば、多くの市民に共有されるのではないだろうかと思うようになったのです。

○それぞれの地区も集約型

各地区のワークショップでは、特に交通弱者といわれる人たちの立場でまちづくりを考えましたので、既存の生活拠点機能の集まる区域に集まって住むか、またはその区域を利用するための地域内交通の必要性が共有されました。

つまり、それぞれの地区も集約型である方が暮らしやすいという結果が示されたのです。コンパクトシティの必要性が感覚的に理解されたと言ってよいでしょう。

中心市街地は花を支える茎の集まり地域構造が集約型であることが持続的発展につながることは、それぞれのワークショップで体感されましたが、それぞれの花の集合体として北上市を見た場合、中心市

街地はどのようにとらえたらよいのでしょうか。コンパクトシティを研究されておられる大学教授等から構成されるアドバイザー会議からは次のような示唆がありました。

都市が元気であるためには、農業、工業、商業、観光、医療福祉、環境、あらゆる分野において、生産地域と消費地域との人口交流や物流が活発に行われなければなりません。それを支えるためには交通やライフラインなどのいわゆる都市基盤が必要です。中心市街地は、それぞれの花が美しく輝くための都市基盤という意味で、「茎の集まり」ととらえて良いのではないかというものでした。そしてかつて栄えた中心市街地には、それらを支えたインフラがすでにある程度備わっていますので、有効に活用することでそれぞれの花も、あじさいの花全体も美しく輝くのだというものです。

また、それぞれの花を飛び交うミツバチのような存在、所謂中間支援NPO的な存在も欠かせないとこの貴重な示唆をいただきました。

○どんなあじさいをめざすのか

あじさいの花は基本的な構造は同じであっても、その色や形、種類は様々です。北上市はどんなあじさいを目指すのか、今正に新しい総合計画、そして各地区では地域計画を策定しています。いずれも今後の持続的発展のためには集約型地域、所謂コンパクトシティの理念を念頭に置くべきことは言うまでもないことですが、地域発の美しい「あじさい型集約都市」として全国に発信できることを期待しながら、今後ともまちづくりをサポートさせていただきたいと思ひます。

